新　春

「四神旗　ー白虎ー」（生田　中山　天王諏訪神社）

中国の伝説の神獣。白は西方の色とされ神社の西を白虎が守る。

館報まつかわ

平成22年　元旦
松川町公民館報
第555号

新春特集

まつかわで“創る”

2010年の幕開けは、“創る”をキーワードに各年代の女性4名にインタビュー。腹話術人形、日本画、アクセサリー、陶芸とジャンルは異なれど皆さんそれぞれに“創る”ことに込める思いや、見いだした楽しみには共通するところがありそうです。

腹話術の人形で交流

“清ちゃ”の笑顔は子どもたちと一緒に

大場清子さん（堤原）

「この子たちがウチの5人兄弟です」。大場さんが次々と連れてきてくれたのは腹話術の人形。大場さんが操ります。15年ほど前、子育てが一段落した時に腹話術活動グループの記事を見て、ビビッときた〝清ちゃ〟はすぐ行動して入会しました。当初はアップル君とダイちゃんの2体でしたが、約10年前から農業体験で訪れる生徒を受け入れるようになり3体増やしました。サンちゃん、モモちゃん、フジコちゃんです。

ですがこの3体には始めの2体と大きな違いがあります。人形にとって大切な頭部の製作者が亡くなったため、紙粘土を使って清ちゃ親子が手作りしたのです。目や口などのからくり部分は専門の方が作ってくれますが、服などは子どもたちの小さなころの物を利用するなど、文字通り「清ちゃの子ども」となったのでした。腹話術の子どもたち（人形）を見る清ちゃのお日様のような笑顔は、みんなとずっと一緒です。

▲写真左からダイちゃん、サンちゃん、アップルくん、モモちゃん、フジコちゃん

◀「サンちゃん」の大好きな清ちゃの笑顔。大場家に滞在する農業体験の生徒たちは腹話術で人形を操り、家族同様の雰囲気の中で交流するそう

思い切って始めた日本画の世界

表現する意味が分かると描く意欲がわき、楽しくなる

有賀修子さん（北垣外）

池坊の華道教授として自宅や公民館などで長年指導を続けている有賀さんが、日本画に取り組み始めて10年余。「絵は見るもので、わたくしには描けないものと思っていました。偶然、飯田市出身の日本画家・浅井秀水先生が講師を務める講座があることを知り、思い切って飛び込んだんです」と有賀さん。

描く題材はふだん接している「花」が多く、花の細かい部分までをじっくり見て描くよう心がけています。しかし、忠実に描き写すだけではなく、自分の感動をどう移し込めるかが難しいところでもあり、自由に表現できる楽しさでもあるそう。「絵を鑑賞し、デッサンを学びながら昨日より今日、今日より明日と、少しずつ表現することの意味が分かってくると、描くことへの意欲もわきます。何より絵を描くことが楽しくて」と目を細めた有賀さんが印象的でした。

◀「小春日和」（30号）一昨年、南信美術展に出品し南信美術会賞を受賞。庭に咲くツワブキと、愛猫がのんびりとしている様子が伝わってくる。「日本画の色彩豊かで品の良く、落ち着いた世界がわたくしの憧れです」と有賀さん

◀中央公民館で開催している生け花教室を指導。生け花、日本画を通じて多くの方との出会い、人とのつながりを感じているそう

“古いモノ”に新たな生命を

アンティーク時計のパーツでアクセサリー作り

久保田さち子さん（広小路）

昭和初期に料亭だった趣のある建物を利用し、アメリカのアンティークやビンテージ品、日本の古雑器、古布のリフォームや手作り品を販売する店のオーナー・久保田さん。「子どものころから身近にあった〝古いモノ〟。その良さを祖母や母がよく話して聞かせてくれました。モノには時代背景があります。私は勝手に『モノの向こう側』と言っているんですけど（笑）」。当時のデザイン、製法、素材感などを楽しみながら、現在の生活スタイルに合った使い方を提案しています。

そんな〝古いモノ〟の一つ、アンティーク時計のムーブメントやパーツを利用して作るオリジナルのアクセサリーが評判を呼んでいます。「動かなくなった時計にもう一度命を吹き込んで魅力あるものにできれば。使ってこそ〝モノ〟も喜び、人の手が触れることで〝モノ〟が生きると思うから」。やさしくほほ笑む久保田さんの視線は、使い手を待つ〝モノ〟たちに向けられていました。

◀▲「使う時のイメージが浮かんで購入したものばかり」と、大切にしているコレクションを見せてくれた久保田さん。店の商品も“使う場面”がうかがえるものをチョイスしているそう

▶文字盤やムーブメントと石を組み合わせて作るペンダント、イヤリングなどのアクセサリー。「各パーツの造りのおもしろさ、繊細さを生かしたアクセサリーにしたい」と久保田さん。評判を聞きつけ、手持ちの時計をアクセサリーにしたいと遠方から訪ねてくる人も。細かいパーツをアクリル樹脂で固めたオブジェ風の新作に挑戦中

▲生田の粘土を使った器。

▲ほほえましい表情が人気で10年間作り続けている「お地蔵さま」。手に持っている小物も手作り

陶芸のおもしろさを伝えたい

教室で開催・指導しながら生田の粘土で器作り

横溝　薫さん（中山）

陶芸工房「薫風」を立ち上げて2年半。「趣味で教室を開いているの」と話す横溝さんですが、陶芸歴は20年ほど。愛知県瀬戸市で10年ほど陶芸家・寺島裕二氏のもとで修業を積み、教室の講師を務めるという経験を積んできました。

生田の地に住まいを構えて3年半になりますが、当初はこの地で陶芸をする予定はなかったそう。「経験を生かしてみたら？と主人のすすめもあってね。陶芸のおもしろさ、作ることの楽しさを伝えられればと思っています」。

近ごろでは生田の粘土を採取して器作りを試みたそう。「粒の粗さがあるので何種類かの土と混ぜて使ってみました。黒い粒々が御影石のように見えるかな、なんて。今後も粘土が手に入れば試してみたい」。2月に開催される「生田地区芸能文化祭」に教室の生徒さんらの作品とともに、横溝さんも出品予定。「こんな器に花を生けてみたい、と思っていただけるような花器を作ろうと考えています」。

▶「ロクロをひく時は平常心で。よそ事を考えているとすぐ崩れてしまうから」

◀陶芸教室に通う生徒さんらの作品。教室は毎月第1・2・3水曜の午後2時～5時くらいまで。現在、生田地区を中心に町内から15名ほどが訪れ陶芸を楽しんでいる

まつかわ大学 第３講座

「かけがえのない命」

12月5日　町民体育館トレーニングルームにて

「講師　木村喜久雄さん」

「ガンという命がけの経験だからこそ、人生について教わった」

今回の講師は、元小学校長で高森町在住の木村喜久雄さんです。退職後、５度にわたる肝臓ガンの手術を受け、その経験から学んだという、命や人生のことについてお話してくださいました。

木村さんは、一人ひとりみな違う人間であること。しかしみな公平であることも闘病生活のなかで教わったと語ります。

◆必ず死が来る

死が訪れるのはみな同じ。「私はガンで死ぬのではない。生きているから死が訪れるのだ。」と考えるようになった。

◆その人生は一度だけ

人生は一度だけ。しかも死ぬときは何も持っていくことはできない。お金に執着してムダに貯める必要はない。

◆自分だけの人生

たとえ夫婦であっても、自分の人生を相手に分けてあげることはできない。自分の人生は自分だけのもの。（自分を大切にする）

◆あなたは「ただ一人」

地球には今67億人といわれる人たちがいるが、一人として同じ人はいない。（他人を大切にする）

このほか、自身の体験に基づくさまざまなお話をされ、受講した皆さんの心に訴える講座となりました。

名子地区公民館　家庭教育学習会

12月13日、名子公民館にて家庭教育学習会が行われました。

今年も、名子地区公民館と名子子ども育成会との共催で、正月飾りのおやす作りと餅つきが行われました。

区長さんからは「今年はインフルエンザの流行で開催が心配されたそうですが、恒例の行事になりつつあるという事で開催にした。」との話しがありました。

おやす作りにはいると、講師の説明の後、ワラを編む工程から始まりました。わからない人も、講師の方や、公民館の役員の方、また保護者の方々の熱心な指導により作る事ができました。

また、おやすができた人はしめ縄も作り完成しました。器用な子は２個３個と作っており、個性的な物から売り物になるような物まで次々とできあがりました。

つづいてに外へ出て、餅つきが行われました。臼と杵が３つ用意され、蒸しあがった餅米を子ども達が交代でついていきました。２人掛かりや大人の協力もあってつく事ができました。

餅つきが終わった後は、きな粉・あんこ・おしるこを役員の方達が用意してくれ、子ども達は持参したお椀と箸で何個も食べていました。寒い中でしたが、餅が固くなる前に無事体験する事ができ、食べる事ができました。

今回の学習会も、小学生から保育園児50人程が集まり、保護者も加わって、にぎやかな学習会となりました。

大人も真剣になります

よく狙って…ヨイショ

手作りの正月飾り

人権を考える問題　みんなで仲良く

「言葉」と「友達」

松川中学校　1年3組一同

今年の3月、私たちは小学校を卒業し、4月に中学校へ入学しました。新たな友達もたくさんでき、毎日を楽しく過ごしていましたが、日がたつにつれ、仲良くなり、中学校生活に慣れるに従って、少しずつ言葉遣いが悪くなってしまいました。そんな中で、私たち1年3組では、「言葉」と「友達」について考えました。

自分たちの何気ない一言が相手を傷つけていることやどんな言葉が人を喜ばせるかを知り、友達に対する自分の言葉について考えました。また、そこから自分たちのクラスの姿についても考えてみました。私たちが思う、自分たちでできる努力や目指す姿を次のように考えました。

①こんな努力が自分でしたい。

・学校へ来たらみんなにあいさつをする。
・自分でされて嫌なこと、言われて嫌なことをしない。
・自分からいろんな友達と話をする。
・人のミスを責めたりせず、「大丈夫だよ」と声をかける

②自分で！班で！みんなで！

こんな努力がしたい

・人の気持ちを考えた言葉づかい
・まず挨拶！誘い合って行動
・悪口などを言わない日を作る
・困っている人に声をかける
・ありがとう、ごめんねを大切にする
・挨拶、相手を思いやる

③こんな学級を目指したい

・悲しい顔をしている人がいたら、声をかけてあげられる。
・悪いことを言ってしまったらすぐ謝れる
・休み時間、移動教室の時誘い合える。
・いつも笑顔でいられるように人が悲しむ言葉を言わない。

これらのことを大切にして、私たちは「ほんの少しの思いやりが人を笑顔にする」をモットーに、自分にできることから実践しています。学級目標の「THE SMILE」（ザ スマイル）を目指して、友達を大切にしていきたいです。

松川町の文化財（365）

文化財シリーズ

大島城(28)
織田信長に殺された大島五郎左衛門長利

教育委員会　酒井幸則

長篠の戦いで大勝し、信玄亡きあとの武田軍の実力を知った信長は、先に伊那衆を率いた秋山信友に占領されていた美濃岩村城の奪還に着手し、長篠戦から一ヶ月後の天正三年六月、嫡男の信忠を先陣として大軍を岩村城へ向かわせました。美濃の名城といわれる岩村城は難攻不落を誇り、織田の大軍が城を包囲して攻め立てても、なかなか落ちる気配を見せず、城の包囲は五ヶ月間も続きました。十一月十四日、武田勝頼が岩村救援に向かったことを察知した信長は救援の報を知らない秋山信友に、「城を開ければ将兵の命を助ける」ことを条件に和議をもちかけました。長い籠城も限界に達した秋山信友はこれを受け入れ、十一月二十一日、在番の大島長利・座光寺貞房の二名と共に信長の陣へ出向いたところ、信長は即座に秋山ら三名を捕縛し、岐阜城下の長良川の河原で磔（はりつけ）にかけて殺しました。また残った城兵八〇〇余名が信州を目指して落ちる時、城の東の木の芽峠へさしかかったところ、その前後を塞ぎ、松明（たいまつ）を投げて焼き殺しました。この時、岩村救援に向かった武田軍は、平谷の豪雪に阻まれ、それより先に進めなかったのです。このことは信長の一生を記した「信長公記」に詳しく記録されています。惨忍な殺戮を行った当事者が記していることですから、相当に信憑性があります。

岩村の記録ではこの時、捕えられた秋山・大島・座光寺の三将と、秋山の妻（前城主遠山氏の未亡人、実は信長の伯母）は、岩村城下西南の大将陣へ引き出され、逆さ磔にかけられ、槍で突き殺されたとあります。実の甥に辱めを受け、槍で突かれた秋山夫人は呪いの声を発して息絶えたといいます。

今、大将陣公園には秋山信友と大島長利・座光寺貞房の最期を記す小さな碑が立っています。

信長が甲信侵攻、即ち武田討滅のため大軍をさし向け、大島城に迫る七年ほど前の出来事でした。

埋蔵文化財（263）

冬将軍をやっつけよう!! 熱闘スポーツ!!

松川町男女別ダブルスバドミントン大会

平成21年12月13日（日）松川町男女別ダブルスバドミントン大会が松川町民体育館を会場に男子22チーム女子21チームの参加をもって開催されました。

男子の部

〈Aブロック〉
優　勝　佐々木章吾　中島　伸（ジョイフルB・C）
準優勝　木村　壮一　中島　昌弘（松川体協B・C）
第3位　山田　和浩　原　一典（松川B・C）

〈Bブロック〉
優　勝　中島　和人　中島　和希（ジョイフルB・C）
準優勝　米山　正彦　小野川幸洋（ジョイフルB・C）
第3位　山岸　哲　吉川　貴尋（松川体協B・C）

〈Cブロック〉
優　勝　小池　久男　大沢　槙哉（上片桐B・C）
準優勝　川瀬　廣美　澤田　義光（名子B・C）
第3位　森上　健　岡本　誠也（駒高B・C）

女子の部

〈Aブロック〉
優　勝　水田あゆみ　水田　友美（ジョイフルB・C）
準優勝　山岸　祐子　北林　利美（松川体協B・C）
第3位　林　加菜子　丸山さなえ（松川J・B・C）

〈Bブロック〉
優　勝　森下　淳子　北沢　真希（ジョイフルB・C）
準優勝　塚田　恵利　松下　佳世（松川J・B・C）
第3位　小原　梨紗　髙田奈々未（松川J・B・C）

〈Cブロック〉
優　勝　小原　暁　下沢　智子（福与B・C）
準優勝　松下　恵美　片桐香保里（名子B・C）
第3位　片桐　知佳　大島　美咲（松川J・B・C）

全国高校駅伝大会 ～松川中出身のランナー活躍する～

12月20日、京都市で全国高校駅伝大会が開催されました。長野県男子代表の1つ佐久長聖高校からは、松川中学校出身のランナーが3名出場しました。2区の松下君が区間2位、6区の代田君が区間3位に入るなど、チームの4位入賞に大きく貢献しました。

結果は次の通り。

2区　松下　巧臣（3年）
　記録　8分22秒
3区　臼田　稔宏（2年）
　記録　24分29秒
6区　代田　修平（3年）
　記録　15分04秒

トップでたすきを受けスタートする臼田選手（佐久長聖）

情報

本館行事

〈街頭あいさつ運動〉
日時　2月1日（月）
　午前7時～8時
場所　町内各所・学校周辺

〈まつかわ大学　第4講座〉
演題　「心を動かす言葉」
講師　千葉市女性センター
館長　加賀美幸子氏
日時　2月13日（土）
　午後1時30分
会場　町民体育館
　トレーニングルーム

〈高齢者講座　第4回〉
日時　2月19日（金）
　午後1時～2時
内容　楽しい芸能
出演　劇団「赤門」
会場　町民体育館
　トレーニングルーム

〈なかよしクラブ〉
（第1回）
期日　2月2日（火）
会場　子育て支援センターおひさま
内容　「楽しい集い」
　節分お楽しみ会
（第2回）
期日　2月16日（火）
会場　子育て支援センターおひさま
内容　親子おやつ作り

なかまたち今

東小学校
学校に関わる人たちみんなでの取り組み

5年生学習研究「コオロギの音色とバイオリンの科学」
県議会議長賞受賞

県議会議長賞を受賞した5年生の皆さん

松川東小学校では、今年、5年生の市岡成親君、松沢孝太君、松下光帆さんの3人が手掛けた学習研究「コオロギの音色とバイオリンの科学」が、今年度の県学生科学賞作品展覧会で、県議会議長賞に選ばれました。

この学習研究は毎年、各学年ごとにさまざまなテーマで行われており、過去には30年程前に県知事賞、11年前には同じく県議会議長賞を受賞している、同校にとって歴史ある活動です。今年の東小学校では、各学年の児童と先生が共同で4月に研究テーマを決め、1・2年生が身近な鳥についての研究、3・4年生が14種類のてんとう虫についての研究、5年生は先に紹介したコオロギの音色についての研究、6年生はタヌキ藻と呼ばれる学校近くに自生する藻についての研究と、どれも恵まれた身近な自然環境を題材に、総合学習の時間や夏休みを利用して、約半年かけ、各テーマごとにみんなで協力しあって研究を行いました。

研究題名を聞くと、コオロギとバイオリンがどのように結びつくのか、疑問に思う方もいらっしゃると思います。コオロギは口で鳴くのではなく、背中の羽をこすり合わせての音を奏でており、その仕組みは、人間が創り出した楽器をヒントにし、比較すると研究結果が分かりやすいと考えた為だそうです。研究では、コオロギの鳴き方、顕微鏡での羽の観察、羽の大型モデル作成、モデルで音を出す実験、バイオリンの音が出る仕組みの研究等、大人顔負けの深く追究された研究が行われ、コオロギとバイオリンの奏でる音の仕組みの共通点と違う点を調べ、科学的なイメージはほぼ合致するといった事を解明しました。担任の手塚先生のお話では、特にコオロギの羽のモデル作成に大変苦労したそうですが、みんな夢中になって懸命に研究を行ったそうです。

この他にも全校や保護者、地域の人みんなで行った活動も数多くあり、最近では昨年末に今年の干支である寅にちなんだ竹製の置物を、一人ひとりデザイン画を書いて作成しました（左写真）。

地元の竹を使った手製の寅の置物を手に

こどもの詩

おちばかき
中央小2年　田村朝陽

おちばかきをしました。
えっせ、えっせ。
くま手で、あつめました。
すきまは、いもうとの、竹ぼうきでやってもらいました。
おちばがいっぱいだったので、たいへんでした。
おちばで山が、できました。
おちばの山で、あそびたいな。
つっこんでみたいな。

らっかせい
中央小2年　宮下　巡

ぼくには、小さすぎて
ねむれないけれど、
かぶと虫には、
ちょうどいいまくらだね。
頭をのせると
カタッ
カタッ
と、音がするよ。
らっかせい
食べほうだいの
ゆめを見れるね。

俳句

去年今年（こぞことし）
北原泊瀬（宮坂）

浪士らの留まりし宿場初明り
産土の磴（とう）百段の淑気かな
丸文字の賀状も届き年深し
初夢や児は手裏剣を抱きしまま
無職とも主婦とも云ひて去年今年

短歌

婚五十年
桃澤幹子（諏訪形）

北風に田の面の波は荒々と
根着かぬ早苗に初めての試練
伴ないて五十年目の記念日を
指宿にて迎える春のうらら日
記念にと植えたる松も金婚を
祝いくれしに夫の急逝
「お父さんこれが最後ね」
故と記し（しる）文化祭に飾る短歌の額縁
初蒔きて育てし玉ねぎ七〇〇本
根着き生いたち励まされいる

韓国訪問記③

日本仏教の原点を訪ねて

編集部　光澤正之

日本仏教の原点の地で

日本へ仏教を伝えた百済の都があった扶余（プヨ）の地では、法隆寺や飛鳥寺が建てられた時代と同じ時代のお寺の跡地や、その他お寺を視察しました。百済から仏教が伝わった当時に日本で建てられたお寺は、百済のお寺の五重塔や本殿の配置と同じで、使われている瓦も百済式の瓦であるということです。当時、百済にとって仏教はとても大切なものであり、その仏教がそのまま日本に伝えられたということで、当時の人々がいかに国同士の交流を大切にしていたかが読み取られました。また、異国で日本と同じものを見ることで、歴史のおもしろさも感じました。

百済の古都扶余（プヨ）には聖王（日本書記では聖明王）の像が立つ

信仰か美術か

時代とともに、日本に伝わった仏教は徐々に変化し、今に至っています。

私が感じた、今の日本と韓国の仏教の大きな違いは、日本ではお寺や仏像は作られた当時のものをそのまま保存し、美術的観点が強くなり、身近なものではなくなっていますが、韓国では仏像は常に黄金に光り輝いて人々の目に触れられ、建物も色彩豊かで、まるで「新品」のような状態に保たれ、今も人々の日常の一部として存在しているということです。それだけ信仰の厚さに差があるのだと感じました。良い悪いという話ではなく、それもまた興味深いこととして心に残りました。

極彩色の寺に黄金に輝く仏像が安置される

百済時代の寺、定林寺跡

まとめ

今回の韓国訪問は、わずかでも他の国のことを知ることで自分の国を知ることができた、とても貴重な体験となりました。

最後になりましたが、今回お世話になった方、また私の韓国訪問を実現させていただいた関係の皆様に感謝申し上げます。

ぺんぺん草

ＣＯＰ15。昨年末新聞紙上やテレビ報道を賑わせた言葉だ。調べると、正式には気候変動第15回締約国会議と言うそうだ。この会議は人為的に作り出された温室効果ガスによる気候変動を最小限にするため、具体的数値による条約を結ぶ事が目的であったはずだが、各国の利害関係により、参加国による合意という形も叶わないまま、先延ばしという結果で終わった。確かに現在の経済情勢を考えると、合意内容によっては、私達の生活に大きな影響を及ぼすだろうし、気候変動が温室効果ガスによるものだという科学的精査に疑問があるという考えも分からないでもない。ただ人間の文明社会により地球環境が大きく変わりつつある事は間違いない。今年は名古屋でＣＯＰ10生物多様性条約会議が開催され、ＣＯＰ16も開催される。未来の地球ををどう考えるべきか、前向きな結論を期待したい。

（岩崎敏宏）

公民館報
「まつかわ」
第555号
平成22年1月15日
発行所　松川町公民館
責任者　塩澤三佳
編集人　公民館編集部
Tel 36-2622
e-mail: c.kouminkan@matsukawa-town.jp
飯田市上郷黒田121
印刷所　龍共印刷㈱